

第 5 回 第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議 議事録

1. 日時・場所

- ・平成 19 年 11 月 19 日 (月) 15:00 ~ 17:15
- ・平塚市中央公民館 3 階 大会議室

2. 出席者 (敬称略)

【委員】

区分	氏名	所属等	備考
学識経験者	杉本 洋文	東海大学工学部建築学科教授	座長
	照屋 行雄	神奈川大学経営学部国際経営学科教授	副座長
	岡村 敏之	横浜国立大学大学院工学研究室准教授	
各種団体推薦者	三浦 清孝	平塚市自治会連絡協議会	欠席
	田中 宏一	平塚商工会議所 (商業)	
	石田 庸夫	平塚商工会議所 (工業)	
	本荘 孝幸	湘南農業協同組合	
	小早川 唯因	神奈川県バス協会	代理
	上村 文子	女性防災クラブ平塚パワーズ	欠席
	田代 勝俊	平塚青年会議所	欠席
	花本 由紀	平塚市地域教育力ネットワーク協議会	
公募市民委員	川口 聖子		欠席
	黒部 光司		欠席
	真道 陽一		
関係行政機関	木村 博	神奈川県平塚土木事務所所長	代理

その他、傍聴者 2 名

【事務局】

氏名	所属等	備考
久永 逸雄	都市政策課長	
小野間 孝	都市政策課都市計画担当課長代理	
武井 敬	都市政策課都市計画担当主査	
五島 裕文	都市政策課都市計画担当主査	
平田 勲	都市政策課都市計画担当主査	
野呂 俊之	都市政策課都市計画担当主査	

【作業協力班】

氏名	所属等	備考
高尾 利文	株式会社アルメック 第二計画部長	
坂井 雅子	株式会社アルメック 第二計画部部長代理	
武澤 潤	株式会社アルメック 第二計画部	

3. 議 事

【議事次第】(1) 開会 (2) 議事 (3) その他

【(2) 議事の内訳】

- 1) 全体構想・分野別の方針素案について
- 2) パブリックコメントについて
- 3) 地域別懇談会について

4. 配付資料

- 資料 - 0 第 5 回第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議次第
- 資料 - 1 第 4 回第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議(前回)議事概要と
その対応
- 資料 - 2 第 4 回資料から素案への主な変更点
- 資料 - 3 素案に対する市民等の意見(パブリックコメント)
- 資料 4 地域別懇談会の概要
- 資料 5 第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議 検討スケジュール

5. 議事概要

(1) 開 会

事務局(都市政策課長): まだお見えにならない方もいらっしゃいますけども、時間を 5 分ほど過ぎましたので始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、第 5 回の検討会議にご出席いただきありがとうございます。

前回、第 4 回検討会議としまして委員の皆様方からいただきましたご意見、また庁内関係課等からの意見を踏まえまして、全体構想と分野別方針の素案の取りまとめをさせていただきました。この素案につきまして本年 10 月から 1 ヶ月間にわたりまして市民の皆様公表いたしましたして、パブリックコメントの募集をさせていただいたところであります。

本日はこの素案を取りまとめるにあたりまして、前回の検討会議でお示した部分から修正をさせていただきました主な所のご紹介と、またパブリックコメントの内容につきましてご紹介をさせていただき、ご意見をいただいてこれから案の作成に向けてさらに検討していきたいと思っております。この際、内容につきまして庁内的にはもう少し議論をして検討しなければならない部分等も多々ございますので、その辺も今後の案の作成に向けまして、皆様のご意見をいただきたいというのが本日の主な趣旨でございます。

また、それと現在地域別の方針を検討するにあたりまして、市内を 7 つの地域に区分いたしまして各地区 3 回ずつの地域別懇談会を開催してございます。現在のところ各地域 2 回目終了した所でございますが、その懇談会の概要につきまして報告をさせていただきたいと思っております。

それでは会議を始めさせていただきたいと存じます。本日のこの会議は、平塚市情報公開条例第 31 条の規定に基づきまして、この会議を公開し、会議録につきましても平塚市のホームページで公表させていただきますので、ご承知願いたいと思っております。それでは、第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議設置要綱第 5 条第 3 項の規定に従いまして、座長に議長をお願いし、議事の進行をお願いしたいと存じます。それでは、「杉本座長」宜しくお願いいたします。

(2) 議 事

座 長： では会議を始めたいと思います。今年最後の検討会議だと思いますけど、是非活発なご意見をお願いします。議題が3つあるようですが、まずは前回皆さんに協議していただいたマスタープランの資料について事務局のほうから説明をお願いします。

1) 全体構想・分野別の方針素案について(資料-1、2)

(事務局より資料説明)

座 長： ありがとうございます。変更した部分の説明がありましたけど、不明な点やさらにここは問題があるという点があればご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

副座長： まずは24ページでご指摘をいただきました所ですが、項目の見出し(5)「都市防災の方針」がこれは前にいただいた素案の方では「防災都市づくりの方針」になっているのですが、書き戻したのですか。今の24ページ表記が、素案の65ページに相当する部分です。

事務局： お答えします。それについてはこちらの素案のほうに書かれております「防災都市づくりの方針」の方が正しいということございまして、今ご説明しました資料の中の「都市防災の方針」は記載が間違っております。失礼いたしました。

副座長： ありがとうございます。それから次に内容についてですが、これはもうここまできておりますので、意見ということでも構わないとは思いますが、少し気になりますので議論ができればと思います。今日の資料の6ページ第 章の都市づくり全体構想のところ、これもずいぶん議論を重ねてきたわけですが、この表示の仕方として「サステナブル」は、我々が使うときは「ティ」じゃなくて「イ」が大文字で使っていると思うのですが、この表記は「サステイナブル」なのか少し確認をしていただきたいと思います。

また、前は括弧で日本語訳がなくて、今回は「持続可能な都市」というように書いておられるのですが、素案の下の方に注記をあえて書いています。将来都市像を明確に示す場合には簡潔に表現をすることが非常に大切ですので、その用語の説明はなるべく省くということにすべきで、解釈は別ですが、あえてこの脚注に付して説明を行っているわけですので、本文のほうのサステイナブルシティの後にあえて(持続可能な都市)という具合に表示する必要があるのか、あるいは翻訳する必要があるのかというのが気になりました。記載の方法ですね。使いたい心境はよく分かるのですが、脚注をつけるならばあえてサステイナブルシティと勇気をもってこの表記を使うなら、20年後もその名称が生きていくのだろうと思いますが、(持続可能な都市)とあえて付けなくてもいいのではないかと思います。

それから、それに関連する表記、記載の問題ですけど、やはりいろいろと考えてきたのですが「かがやきの産業都市」、これは非常に良くなっていると思います。前に比べると「かがやき産業都市」というといいですね。「ときめき」と同時に非常にいい表現になって全体を表すということです。

この「持続的な発展」という所ですけど、やはり持続可能な都市という可能性とは場合のポテンシャルティですので、その資源がそういう意味では非常にいろんな意味の資源があって、将来20年後、その後の発展が可能だというそういう意味で持続可能といったのです。もっと政策的な方向を明確にするためには、ある意味では魅力あるものということであれば、将来都市像ですから持続的な発展が期待できる都市とか、もっと積極的にそこに人々が住んで経済的にも社会的にも幸福を実感できるという意味ではプライドをもって誇り高く生きる人間というのは、様々な経済的・社会的・個人的環境の変化があっても、人として誇り高く生きるという

ことほど生き甲斐があって幸せで誇り高いものはないかという具合に考えます。そういう意味では積極的に「持続的発展を約束するまち」とか「持続的発展を約束する都市」とか、そういうような形で人々に対してこの地域に住むことが、この地域に生まれて生きることや移り住むことが極めて魅力的だということで勇気をもって約束する都市とか、そういうところまでもっと踏み込んでいいのかなと思います。そこがひとつの夢です。

これはなぜ言うかといいますと、我々の役割というのは過去からの自然とか、それから社会文化というものを引き継いで今我々が有効に活用するというだけでなく、むしろ発想を変えて将来都市像を我々が考える場合には20年後、さらには40年後その後もそうですが、将来、つまり次の世代から、地球資源あるいは、平塚地域の自然環境を含めてそれを今我々が預かっているという発想に切り替えるべきだと思います。そうならばそういった意味ではこの今の単なる持続可能な都市という潜在的可能性を将来都市像に盛り込むだけでは、少し不十分かなということはずっと考えてきたわけです。うまく説明できませんが、「将来持続的な発展が…」という表現をした方がいいかと思うのですが、それを使っていいとは思いますが、期待とかあるいは政府や行政が約束というのではなくて、次世代に対して我々が約束するという、そういうような内容をこの項目に関しては改めて感じているということです。修正とかということではないのですが、ここがもう少し自分の中でも整理できないなと感じましたので、感想を含めて申し上げました。

座長： ありがとうございます。どうでしょうか、事務局の方のご意見があればお願いします。

事務局： 今おっしゃられたまずサステイナブルシティについて括弧書きを設けた経過ですが、本市の中でいろいろ検討した結果、市民の皆様はサステイナブルシティという言葉だけではなかなか言葉として内容が直接通じないのではないかという意見がございまして、並列表記とさらに説明文を設置したらいいのではないかということで、今回素案に出しております。それ以上の期待を込めた書き方につきましては、いろいろなご意見をいただきまして説明文についても今後修正を検討して参りたいと思います。

座長： はい。僕もちょっと併記しているのは目標としてはまずいのではないかと感じています。やはり言うのであればサステイナブルシティと言い切ってしまったほうがいいですし、実はこの後のパブリックコメントでも同じような質疑が出てきます。カタカナを使い過ぎですという話があるのです。そこでも議論になると思うのですが、今回はわりとカタカナがたくさん入ってきますから、今後どうするかですね。他にどなたかご意見あれば、さっき先生がおっしゃったように、「約束する」というので前文を「我々市民が…」というような意味が出てこない行政としては書きにくいでしょうね。

副座長： だからこの意見はコメントの仕様がなと思うのです。

座長： そうですね。確かにサステイナブルシティというのはどこでも使っているから、特長が平塚らしいかという、もうこれはどこでも当たり前の都市像と考えられるかもしれないです。

委員： 今からでもこれはまだ変えられるのですか。このカタカナは、私も新聞は見ているし商工会議所でもいろいろな方達と議論をしたりするのですが、なかなかこういう単語は出てこないです。まして注釈や注記が要る内容がこういう大きなところに出てくると自体が、なんとなく今改めて見ると違和感を覚えます。一般の身近な暖かさを感じるような言葉の方がいいのではないかと感じています。

座長： そうですね。併記するとさらにそれが突出して見えますね。

委員： すごく冷たい感じがしました。

座 長： なるほど。他にいかがでしょうか。

副座長： 今のお話ですけれど、カタカナ表記することによって全体をうまく説明できるというものもあるので、カタカナ表記を嫌う必要はないと思うのです。我々日本人にとって極めて重要な言語表現手段です。けれども今おっしゃるように、注記をこれほど細かくしなければいけないほどまだ十分でない、20年後も分からないという場合にはここでサステナビリティを使うのであれば、それは勇気がいるのです。勇気をもってここで使うのか、あるいは一般的に市民が持続的発展都市という具合にその用語を使いたいという気持ちはありますが、その勇気というものを少し抑えてまだ十分じゃなければ使わない。我々の世界ではもう一般的になって環境の保全とか自然資源とか、再生とか盛り込むためにはサステナビリティというのは国際的に知られた表現ではありますけれど、都市づくりの将来像でおっしゃるようにもっと別の表現、例えば持続的発展都市という具合に変えるということは、この段階でやらないと遅くなるということです。

座 長： いかがでしょうか。後で(2)と一緒に議論をやりましょうか。ただ併記するのはやはり止めた方がいいです。副座長に賛成です。どちらかにした方がいいと思います。皆さんいかがですか。これは今日決めた方がいいですか。

事務局： パブリックコメントの中にもありますし、庁内にもいろいろ意見がありますので、これはあくまでも素案ですので、この意見を踏まえまして再度庁内で検討作業を行います。

座 長： はい。それではパブリックコメントの方でも出ていますので、この件に関してはそこでもう一度また議論できればと思いますし、意見等を頂くという様にしたいと思います。他にお気づきの点ありますか。それでは私からも質問します。11ページのひらつかセントラルパークの下の図で見附台に丸が付いたのですが、これはなぜここが丸になるかをご説明頂けますか。

事務局： 11ページの上の図が前回の検討会議で、既にネットワーク的な絵がございました見附台のエリアですが、現在見附台地区につきましては周辺の土地利用を検討している所でございます。将来的に芸術や文化、音楽の拠点になるという検討を加えております。そういった面で総合公園のスポーツ的な拠点、図書館、美術館周辺の文化的な拠点、見附台周辺の音楽的な拠点、この三つのエリアを取りまとめて取り込んだ方がいいのではないかと考えております。さらに中心市街地のゾーンがかぶるということで、中心市街地にとっても波及的な効果があるのではないかと意見が出て、庁内に取りまとめてこの様に変えさせていただきました。

座 長： 分かりました。これで方向性が明確になるわけですね。他にいかがでしょうか。交通のほうはこれで大体よろしいですか。

委 員： はい。

座 長： ではご意見なければまた後ほど、他の項目でご発言頂くと言うことで次にいきたいと思いません。

2) パブリックコメントについて(資料-3)

(事務局より資料3説明)

座 長： ありがとうございます。ざっと全体をご説明頂きましたけれども、中にはご説明した所以外でも心配するような意見もございます。まず感想を頂いて一つずつ検討をしていくという訳にも行かないと思いますが、せっかくですからそれぞれお一人ずつパブリックコメントに対してご意見があればお願いしたいと思います。

委員： 私も読んで来ましたけど、やはり市民の皆様は都市マスということ自体を大きく捉えている方もいらっしゃるし、非常に小さく身近な所で捉えている方もいらっしゃると思います。やはり市の都市マスである以上は、市民の意見をできるだけ反映させるようなものであって然るべきかという感想を抱いております。特に先ほどの説明にございましたが、歴史軸の話など平塚市内だけでは語りきれない様な部分もあるということで、何点かは入っているかと思いますが、その様な形の視点を踏まえたマスタープランのつくりにするというのも一つの手かなと思います。

あと先ほどから出ておりますが、カタカナが多いというのは私も読んで非常に印象があったのですが、一番最初に話題になったのですが、「住むなら平塚、あんしんの快適都市」とかそういう3つがフレーズで出たわけですが、ところが最後に行くとサステナブルという、我々もこの言葉自体は数年前から聞いている言葉ですが、せっかく身近な感じのある「あんしん」「かがやき」「ときめき」になったので、もう少しその辺りも工夫をされればより身近に感じられるようなものが出来ていくのではないかとの印象を持ちました。

座長： ありがとうございます。次お願いします。

委員： 私もカタカナのことですけれど、確かに一番最初の会議でウエスタンヒルズですとかセントラルパークとかコーストステージですとかこういったものを含めて聞いた時に、ちょっと平塚らしいという感じはしないのかなと思いました。確かに違和感があってじっくり来ないなと思っていて、実際にこの所で出てきた話でも違和感があります。最初は言っているのかなと思ったのですが、やはり違和感があるように思っています。将来に向かって書く表現の仕方なので、それもありがたなと途中で思ったのですが、やはり違和感はあるのかなというように思いました。

それから皆さんから出ているご意見は、一つひとつ取ればもっともかなというふうなことは皆そうなのですが、やはり皆さんそれぞれ自分の視点でものを言っておりますので、一つひとつはもっともなのですが果たして全部取り入れるというのはなかなか難しい。前の会議にも出ていたと思うのですが、平塚らしさって何なのかといった視点ももう少しはっきり打ち出されてないと、このマスタープランは平塚でも茅ヶ崎でも秦野でも通用するという様な、全体どこを取ってもどこでも使える感じられます。そこで、何か一つこの路線で行こうというものがどこか色濃く出ていた方が、将来的にこれが中心になっていくのであればそういう部分がもう少し色濃く出ていったほうがいいのかと、そういうふうにあります。

座長： ありがとうございます。もうちょっと「らしさ」を作っていくということですね。次お願いします。

委員： 今日のパブリックコメントの No.4 と No.5 ですが、城島の農業者の方と言われておりましたが、この地区は非常に所得が大変で、要するに線引きを見直しして欲しいと要望されています。他の地区は農業と不動産を持っていて生活ができるけれども、この地区は非常に厳しい状況となっています。我々は生涯農業をやるのか、というようなことを最近結構言われておりますけれど、今日これを見させていただいてどなたかがやはりこういう提言しているのかなと思いました。確かに田園ゾーンというのは必要というように思いますので、そういうことも市のほうも検討して欲しいと思います。

それから先ほどから横文字の話が出ていますけど、私は正直言って横文字があまり好きではないです。出来るならば横文字はあまりしないほうがいいのかと思います。私も生まれも育ちも平塚で、私も農家ですからこの平塚に住みたいし、これから先交通の便が良くなる

とか何が出来るなどいろいろな考え方が出ていますけど、果たしてそれでいいのかなと思います。要するに今の環境をずっと守っていく、中心と結んでアクセスを良くするとか、そういうことだけで果たしていいのかなと若干思ったりしています。とにかくこの平塚に住んでよかったなという様な都市の未来像を描いて欲しいと思っております。私も今年から前任者に代わって来たのですが、そういう意味でいけば横文字を見直してもいいのではないかというような気がしました。

座長： ありがとうございます。では次お願いします。

委員： パブリックコメントですが、やはり交通の面では公共の交通機関の充実とか、自転車の専用道に賛成という点は出来ればそういうふうになって欲しいなとすごく感じました。また、先日地域の教育力に関する会合に出席する機会がありまして、その際に地域の方々から公民館長宛に地区の要望が数件来ることがあるという話を伺いました。一つの例として、通学路の危険箇所を数箇所指摘してあり、その安全が保てるように整備を望むとかそういった意見が届いていると伺ったので、その地区に住んでいる人の声というのはパブリックコメントに含めることができればいいのではないかと感じました。

座長： ありがとうございます。地域別懇談会でそういう意見が出ていると思います。そこをさらに具体化してということですね。では次お願いします。

委員： バス協会ですが、バスのことが前半からあとのパブリックコメントの中にもいろいろ出ていて、市民の方も関心を持っていただいているのだなと思いました。都市マスタープランでは、平塚のエリアに神奈中の本社があるのも含めて南側の東海道本線と北側を走る小田急線、その間のところにバスはかなりの本数が入っていますので、他の都市や地区に比べるとかなりバスの本数はありますので、いろいろなご意見が出ていましたけれどもパブリックコメントの中にも幹線地線の基本の考えが出来ていますので、それに添った形でうまく効率よく運べたらいいのかなと思います。

また、道路と交通の整備などいろいろありましたが、やはり自転車と歩行者と車のそれぞれの専用道など、平塚で新しく何かやるのだったら平塚独自の道路の作り方というのを探求していったらいいのではないかと思います。西側の山の方では厳しいかもしれないですけど、南側の海岸沿いのほうなんかは道路もかなり広く出来ていますので、試験的にいろいろやってみたらいいのかなと思います。

さらに駅前広場なんかもこういうパブリックコメントのような土台があれば、具体的な駅前広場の整備の話を市当局とさせていただきたいと思います。市の予算の関係なんかもあるのでしょうけど、やはりこういうパブリックコメントがあるという事を契機に、もっと有効的な使いやすい駅前広場となるよう市当局ともさらに協議していきたいと思います。

座長： ありがとうございます。次お願いします。

委員： 私はこの案は非常に良く出来ていると思っています。何故かと言いますと、それぞれ皆さんが個別に住んでいる地域で日常目の前にしているいろんな案件を突き合わせて、それで全体にまとまって構想になっていく過程で、十分叩き台は出来ていると思います。ただ、例えば将来都市構造という平塚市の地図の上に色分けしたものがあるのですが、これらを拝見しますとやはり何でも南の核の中心に集まってきていると思います。文化的な物、中心的な物、行政の中心がここに集まって来るのはいたしかたないと思いますけど、かといって西部地域が緑豊かな自然の潤う地域だと切り分けされちゃっていますが、それだけで果たしていいのだろうかと思っています。やはり西部地域の中にも、生活の基盤を持って働いている方やそこに暮らして

いる方がいらっしゃる訳ですから、西部地域の中でも一つの核があってそこでそれなりの生活が出来、ただし何か文化的な物、例えば美術館に行きたいと思えば南の核に来るとか。同じように北の核についても、これからツインシティということでいろいろな物が進んでいくのでしょうけども、それぞれの核の個性を持たせるというのはよろしいのですが、その中でも一つ生活が出来一貫して暮らせるような、それぞれの地域の方もわざわざ中心核に出て来なくても生活するには何の不便もないという形にしたい。どうもこれだけ見ていると新幹線から北側は緑でいいのだという形が、ちょっと見えてしまうようなのが今ひとつ引っかかるかなと思います。

座長： はい。ありがとうございます。

委員： No.21 まで出てきていますけど、私の感覚では少ないのかなという様な感じがしているので、それと、こういうふうなコメントの提出は FAX などいろいろな物で来ていると書いてありますけれど、身分とか立場というのは明記されて来ているのでしょうか。先ほど農協さんのお話もありましたけれど、出来ればどういう地域を背景として、どういう立場で述べられているのかなというのが我々にも示して頂ければ、商業者で例えば商店街関係者の方達はよく勉強しているなとか分かってもっといいのかなと思います。先ほど全部載せたという事をおっしゃっていましたが、載せなかったというものはないので、こんなに皆さんまともな意見ばかり出てきているのですか。

事務局： 市民のコメントについて記載しないと、選択して記載してあるということとはございません。

委員： そうなのですか。そういう意味では行政のレベルも高いけど平塚の市民のレベルも結構高いのだなという事は感じます。しかし、もっとこういった市民のご意見をパブリックコメントでいただくにあたって、どういう貰い方をしているのかなということをもう一度説明していただきたいと思うのですが。例えば、私なんかは商工会議所内で活動していて結構マスタープランですとかに、興味があって、個別的にはいろんな話が出るのですけれど、そういう事が意外とそういう人達っていうのはパブリックコメントを出してないのかなというのを非常に感じるのです。だとしたらもっといろいろな業界だとか商店会だとかの意見が出ていてもおかしくない。例えば西口だとか競輪場のこともあって今回裁判沙汰にもなっていて、新聞にも大々的に報道されている件などについても、意見のある人がいっぱいいるにも関わらず、コメントの No.21 に反映されていないように思います。コメントについて、もっと貰い方というのはあるのではないかなというのを、今回は内容よりもそういったことのほうを感じました。

座長： はい。ありがとうございます。業界の方のご意見はアンケートで取っていますよね。

事務局： はい。

委員： こういうふうになるとなかなか意見が出て来ないと言う事ですね。

座長： そうですね。ここでもう言っているからもういいという事ですかね。

委員： 本当は裏で言うよりも堂々とこういう場で言ったほうが、言っている事を分かってもらえるとおもいますが。

座長： これからはやっぱり情報公開の時代ですからね。

委員： そうですよ。

事務局： 21 件は結構多いです。他の都市との場合と比べた場合や、いろいろなマスタープランと比べた場合とか。びっくりしました。

委員： 私もちょっと聞きたいなと思って地域別懇談会に行ったのですよ。そうしたら発言する人は決まっちゃっているし、この方は他の会でも見た事あるし、もう発言する人はほとんど決まっ

た人なんだなと感じました。なかなか一般の人がそういう所に参加すること自体が少なく、何か敷居が高いというように感じる人もいないのでしょうか。

座長： はい。次の方をお願いします。

委員： 交通の所は良く出来ていると思っています。パブリックコメントを見てみまして、自転車というのはかなり皆さん問題意識が高いというのを改めて思いました。確かにパブリックコメントに書いてある様に、自転車を使いやすくして下さいというのは大変よろしいし、既にマスタープランの案にも書かれているのですけれども、抑制するとは言ってはいけないのですけれども、適正な利用というのもあるのだらうと思っています。それがマスタープランに入っていたかどうか私もちょっと記憶にないのですが、それをマスタープランに出すか出さないかはともかくとして、適正利用として減らす所は減らすし、奨励する所は奨励するという意味での自転車環境の整備という様な事を打ち出すのであれば、はっきり打ち出してしまってもいいのかなという気はしました。単なる感想ですので、目標もよければこのままでとっております。

副座長： パブリックコメントに対する感想をいくつか拾い上げてという事ですが、No.8の方からのコメントですが、追伸の所で「自分の街が大好きなので、関わる事が出来て嬉しい」ということを表明しています。自分の住んでいる街が大好きだという、そういう市民を一人でも二人でも増やすことが非常に大切なことであると思っておりますので、この様な気持ちを持った市民が増えるようなまちづくりをしなければならぬという様に感じました。

それから、カタカナ表記についての私の冒頭の発言は、サステナビリティというものを書くのであれば、あえて日本語訳して詳細な脚注を付けることはこのマスタープランの方では美しくないという話をしたのです。僕はカタカナ表記に関しては、私は勇気をもってどんどん使っていていいという考えを一方で持っています。マスタープランそのものもそうですし、この会議の名前もまさにそうですし、さらにパブリックコメントにしてもカタカナ表記です。我々は、カタカナ表記を使わなければうまく説明できない、あるいは使った方がもっと合理的に操作的に説明できることが相当増えてきていますので、それは非常に大事にしたいと思えます。例えばNo.10の方は、ウエスタンヒルズ、セントラルパーク、コーストステージの表現を、それぞれ機能や地域という意味を示すために西部丘陵地、総合公園とその周辺、平塚海岸とその周辺とかにむやみに変えるのは反対です。私は未来に向かってカタカナ表記ではあるけれど、やはりウエスタンヒルズやセントラルパークとかコーストステージの方が、この湘南の地で整理としては良いという感じを持っていますので、ぜひこれを定着させて使って欲しいなと思います。すべてについでカタカナ表記をなるべく減らすような、そういうことについて多くのエネルギーを使うことはなく、有効に活用すれば良いという意見を持っています。

それからもう一つですが、平塚らしさは、私自身は地域づくりとかどういう地域かというのを考えてきましたが、地域の特性については大学に関わっているということもありますので、先ほど平塚市民の知性の高さを言われたのですが、「知的個性というものが確立して、そのことを基盤とした地域づくり」ということを考えています。そういう意味では平塚らしさと新たな未来価値ですね。平塚らしさは過去及び現在において形成してきた平塚の歴史、地域文化、市民気質、経済特性、産業集積、インフラ、そういったもので形成されていくわけですが、それに加えてここでは将来像ですので新たな価値を付加するとか、創造していくというものでなければ、全体としての将来構想になっていきません。我々はどうするかという問題はありますけれど、そういう意味では安心と住みよいまちづくりと同時に、わがまちに誇りが持てる、誇り高い地域というのを、未来価値創造の基本的内容にしていて、そこに向けて市民あるいは

構成員がみんな協力して、自らのものとして形成していくという方向性などを考えることが大切です。平塚らしさというものを認識した上で未来価値を加えていくという意味では、現在のこの素案は現段階としてかなり整理されて出来ていると評価します。理解の仕方はいろいろありますから、出来るだけこの段階であっても可能な限りパブリックコメントに耳を傾けて、この素案を充実していくという方向でこの検討会議を進めていったらいいのではないかという感想を持ちました。

座長： はい。それぞれ読ませていただくと、いろんな意見のレベルがあって地域別懇談会の中で吸収出来るものや、各分野別に吸収できるものなどはあると思うので、これが整理されるのであれば是非そのように整理して検討していただきたいなというように思います。

あとは、私はだいぶ平塚を歩いていまして、“らしさ”については個人的には意見を持ちつつあるのですが、全ては歩いていませんので、全体を包含する“らしさ”というのはなかなか言いにくいのですが、平塚にはいくつかの魅力があると思うのですよ。一言で表現出来ないのではないかなというのが僕の意見で、幕の内弁当のようなものがどれが代表しているのかなと言えないところが、言えれば非常にいいのかなと思うのですけれど、私自身も見つかっていません。ただ生活するには非常にいい所であるし、こんなに道路がちゃんと出来ている都市はないと思っています。部分的には西部地域にしても道路が整備できていない所もあると思います。そういうところは地域別で拾い上げていくということになるのではないかなと思います。この意見を聞いていて、概要版を相当よく読んで自分の分からない所を指摘して下さっているという意味であると、市が非常に市民と対話しながらマスタープランを作っているという姿勢で、かなり理解していただける部分もあるのだなと感じています。地域別懇談会について、後ほど報告があると思いますが、そこで市からいろいろ説明していくことによって、いろんな言葉については少しずつ市民のほうに受け入れられていくのではないかと考えています。そのように考えてもう一度7ページの都市マスタープランの全体を示す時に、どういう情報を入れて示したら良いかということですが、ここに書かれているものは比較的交通ネットワークというものが非常に強くて、住んでいる方は線で書かれていない所にいらっしゃってそこはどんなだと感じていらっしゃる意見が凄く多いです。マスタープランの表現の仕方として、この絵が一番外に出て行って市民の方がこの絵を見て理解していくことになりませんが、これですとたぶん道路ネットワークの話が非常に強いのではないかなと思います。先ほど生活それぞれに拠点が必要だという話が出ましたが、実は都市マスタープランでは今回の概念図がありますが、17ページに住まいを支える都市づくりの方針に、3つの核だけではなくてそれぞれの地域にそれなりのレベルの生活を支えていくような拠点間とネットワークの方針が書いてあります。こういうイメージが全体像の中に表現できないかなと思います。書き込めというのではなくて、伝わる方法がないかなと思います。例えば、ここはゾーンを書くのですが、ここにはこういうものが創られていくということを目指しているとか面的なところの表記の仕方、先ほども西部地域に全く何も拠点が無いのかと言うと、実はマスタープランでは拠点を作っていきましょうということが書いてあるわけで伝わらないですね。少しマスタープランのデザインの仕方を工夫していただいて、そういう意図がここには書いてありますよとしていただきたい。ここには市街地と書いてありますし、エリアも示されているのだらうと思いますけれど、この辺りは市民の方と多分一番コミュニケーションをするものだと思うので、そこに少し工夫を入れていただいて我々がマスタープランで思っていることを伝えて欲しいなと思います。

自転車についてもこれですとそういう事が伝わらないのですね。何かそういうものが伝わる

方法はないかなと思います。道路の整備と比較しても意味はないのですけれど、少しそういう工夫をしていただきたいなと思います。

あとはやはり事業費の問題が出てますが、少し書くのであればもう少し市民が我慢するところは我慢するとかというふうにやらないと、マスタープランが全部要望の積み重ねで出来上がるという形になります。選択と集中も必要だと思うのでその辺を平塚市民はまちづくりに協力していくという気持ちが伝わるようになるといいなと思います。市民の意識が高いのであればもう一步踏み込んでいただいて、住みよくする為には福祉とかの問題があると思いますが、それを全部公共的なサービスで担っていこうとしていくのか、予算は限られているのだから、例えば自転車を乗りこなす学校を作って、平塚の自転車の走り方は技術的に安全に走っているというモデル都市となるほうがいいのではないかと思います。そういうマスタープランが書けるといいなというふうに思うのですが、その辺はいかがですか。

事務局： 皆さんからいろいろご意見を頂きまして、今後の参考にさせていただきたいと思います。先ほど座長の方からおっしゃっていただいた通り、パブリックコメントの意見につきましては、全体構想で取り上げるべき内容と、今後検討していきます地域別の中で対応できる内容等もございまして、それを整理して進めていきたいと思っております。

最後の予算の関係で、選択と集中をどうしていくかという話につきましては、現在地域別懇談会の中でもいろいろと地域から意見や課題、要望等も出ておりますので、いずれも全て位置づけをして取り組んでいくのではなく、その進め方、工夫として、市民一人一人が出来る内容と、市民が協働していかなければならないもの、公共として中・長期的に責任持ってやる事業などを、そういった切り口で地元の方とも議論していきたいというふうに考えています。そういった主旨も今後全体の中でもフィードバックさせて、将来的な実現に向けての中で次回以降で検討していけたらいいと思っています。

座長： 議論の時間が続きましたけれど3つ目がまだ残っておりますので、今進んでいます地域別懇談会の内容についてご説明いただきたいと思います。

3) 地域別懇談会について(資料 - 4)

(事務局より資料4説明)

座長： 何かご質問や聞きたい事がある方はお願いします。

委員： 先ほどカタカナの表記の件で自分の中にもややもやとした部分があって、どうしてそういう風を感じるのかと今まで考えていたのですが、副座長のおっしゃったような事というのはなるほどなと感じました。新しいものを作っていく上ではそういう考え方も必要だし、確かにそうなのだなと非常に納得はしたのですが、自分の感覚的なものが、非常に古いのかもしれないですけど納得できないのです。今見てみると、これは分解してみますとすべて文と表で出てきますよね。それは文字と絵ですよ。例えば海を考えたときにこの表の中を見ると、太平洋と相模湾と平塚海岸と海という四種類の表記が出てきます。そこにコーストステージという文章が加わると、ピンと来ないかなという風に気がついたわけです。レベルをどこに合わせるのかということですが、それは確かに学者さんレベルではサスティナブルシティというのもそうですし、コーストステージもそうですし、アメリカの事かと思わせるようなセントラルパークもそうなのですが、やはり一番大事なことは市民の方が一番分かりやすいことで、一番分かりやすい活字表記を使うのがいいのではないかと思います。例えば、先ほどの海の表記も、あえて太平洋、相模湾、コーストステージ、海などと使わずに平塚海岸に統一して十分なのではない

かと思えます。あえていろいろな表記を使う必要はないと思えます。誰が見ても平塚海岸ですから、そういった意味でおそらく違和感を覚えているのではないかと感じました。

委員： 今の事と少し違うのですが、まずサスティナブルというものはまだ耳になじまないですよ。それでなかなか横文字がなじまないという話になると思うのですね。でも逆にウエスタンヒルズですとかコーストステージと言うと、ウエスタンヒルズは、今までの西部丘陵というような堅苦しい言葉よりもイメージとしては、平塚の西の方で相模湾から昇る朝日があり沈む夕陽があり、海の表面に陽が照っているようなイメージがあって非常にこの堅苦しい文章の中から説明するよりも、その一言でイメージが湧いてくると思うのです。そういう映像的なイメージを出すにはカタカナではありますけれど、西部丘陵と言うよりもその方がよろしいと思えます。一方、コーストステージは、潮風を感じ、松並木があって凄いお屋敷ばかりではないですが、南のイメージがあるし、セントラルパークも平塚の中心に大きな公園があるというその一言だけでイメージが分かります。日本中の方に話してもまちの真ん中に大きな公園があるとわかると思えますし、総合公園というよりもイメージしやすいというのはあると思えます。ただ何度も申し上げている通り、ご年配の方は違和感を覚えるかもしれません。そういった方に対しては映像的なイメージだということで、写真を入れる等の工夫をして説明してあげれば、かえってそのほうが理解しやすいのではないかと私は逆にそう思います。

座長： 他いかがでしょうか。

委員： 7ページの絵を見ていて、座長から自転車の話が出ていましたが、上の図が自転車のチェーンの様に見えてきたのですが、平塚の中でいくつかのポイントが中心になって動いているというよりも、それぞれ間にある面の部分の一つひとつが動いて平塚のバランスが取れ、一つの都市を形成しているという風に考えて、自転車という言葉もあって歯車という言葉が出てきました。

例えば7つの地域に分かれていますけれど、これが大きい歯車もあれば小さい歯車もあって、その歯車の一つひとつ動いていますけれど、全体がうまく噛み合いながら平塚が常に動き続けていると言う感じで、それと自転という言葉がなんとなく絡んでいくのかなと感じます。それが将来的にも自分で転がり続けるという、そんな所から自転車という言葉と歯車の様なものが今日の会議を聞いていて浮かび、全体的にそんな絵が書けたら面白いのではないかと思います。

座長： ありがとうございます。他はいかがですか。

多分ここに書かれるさっきおっしゃっていた言葉は、結局コミュニケーションを取る為の言葉なのです。カタカナにするとイメージが付いてきて、お互いに新しいビジョンみたいなものが感じられれば、それでお互いコミュニケーションが出来ればその言葉はいきていくのですよね。それから20年後ですけど、西部丘陵ではあまりそういうイメージが出てこないのは確かです。ここでカタカナの言葉を使っているのは、今のイメージから将来を作っていくためのイメージの為に言葉を作られたと思うのですよね。これで決定ではないと思うので、もう少し言葉はあると思うのですよね。もしかすると日本の言葉でもそういうイメージを出す言葉はあるかも知れないです。よく我々もそういうものを作る事があるのですが、やはりコミュニケーションをされる事が一番重要なことですから、その辺りを考えて欲しいです。多分目標の所は非常にコミュニケーションがしやすくなるような読み方のリズムが出ていますし、いいと思います。これは全部カタカナが一つもないですから。平仮名にすることによって逆にいうと「あんしん」というのを漢字で見ると全然違うイメージが出ますし、平仮名にすることですごくイメージが広がるのですね。そういう時代になっているので、そういった意見も市民の方達から

出てくるといいなと思います。

地域の方達が自分達の地域を我がまち自慢していただいたときに、「何がいいんですか」と聞いた時に「こういうのがいいんだよ」と言っている言葉があるかということが大事で、それがないとコミュニケーションはなかなか生まれて来ないと思います。その辺りを地域別懇談会で引き出すようなワークショップをやっていただいて、例えば富士見町はどんな魅力があるかというのを、市民の方から出していただいて、それが全体でいくつかの歯車になって一つになるといいなと思います。もう一度サステイナブルという言葉や、全体の言葉を検討してもいいなという感じがしました。

事務局： 都市マスの役割というのはいろいろありまして、普通に杓子定規に言いますと、一つは県の計画との関係で、やはり広域にやっていかなければならないので、県の計画として都市計画という視点でどうしてもやっていかなければならないということと、もう一つは市民と協働でプランを作るという両方の面がございます。県との計画で考えますと手のひら構造といいますか、今日の資料の 7 ページのような事で考えてみますと、わりとこういう所で少し広域的に、平塚市の構図はこうあるべきだということは合致してきます。ここに市民向けのものを入れようとするとなかなか難しく、そのため地域別方針というのが、 章のほうで出てきますので、その辺では 7 地域別に身近なまちづくりについて、どうしていくかという話になっています。

今回の素案は分野別方針で止まっていますから、都市マスはここで終わっているのかなとか、身近なことはないのかなという疑問はあるかもしれませんが、地域別方針を入れてもう一度パブリックコメントをした時にどのように感じていただけるかというのはあると思います。それと太平洋と相模湾につきましては、今回の都市マスの狙いで、いわゆる平塚を広域にアピールしていこうという考えがありますから、圏央道が出来て内陸の都市の人達は、太平洋側に行くか日本海側に行くか結構悩んでいる方がおられるのです。実際そうなのですが、圏央道が出来たことによって北に行くか南に行くかで迷われます。海を持っていない都市の方は、海に憧れているのですね。そうすると平塚の海ではなくてここは太平洋の海なのです。ですから平塚市民にとっては平塚の海ですけど、もう少し広い視点で遠い所から見れば太平洋ですから、平塚を広域にアピールしようという視点で太平洋と入れさせていただいたということです。そういう意味でも、顔づくりというのも地域の身近なまちづくりとしての顔ではなくて、少し外に売っていこうという顔ですから、外に対して横文字のほうが受けがいいのかなという考えでございます。やはり地元の人達は「えっ」という感じはあるかもしれないですが、そこは地域別方針でしっかりカバーしていければという思いがございます。

座 長： ありがとうございます。苦労されているのがよくわかります。今ご説明してもらった様に、広域的に見るか住民向けに見ていくかということで多分違うと思いますが、両方に通用する言葉が出てくると一番良いですが、なかなか難しいとは思いますが、是非検討していただきたいと思います。他に発言しておこうという方がおられればお願いします。

よろしいですか。それでは 3 つの報告と地域別懇談会の中間報告の形で報告がありましたが、今日は冒頭からテーマの題材がカタカナ言葉の辺りから始まりましたけれども、何とかいろいろご意見頂きましたのでぜひ事務局のほうでまとめていただいて、次回は多分地域別懇談会の結果が中心になって、各地域の方針というのが議論の中心になると思います。

(事務局より資料 5 説明)

(3) 閉 会

座 長： 以上をもちまして、本日の会議は終了いたします。ありがとうございました。 以 上